

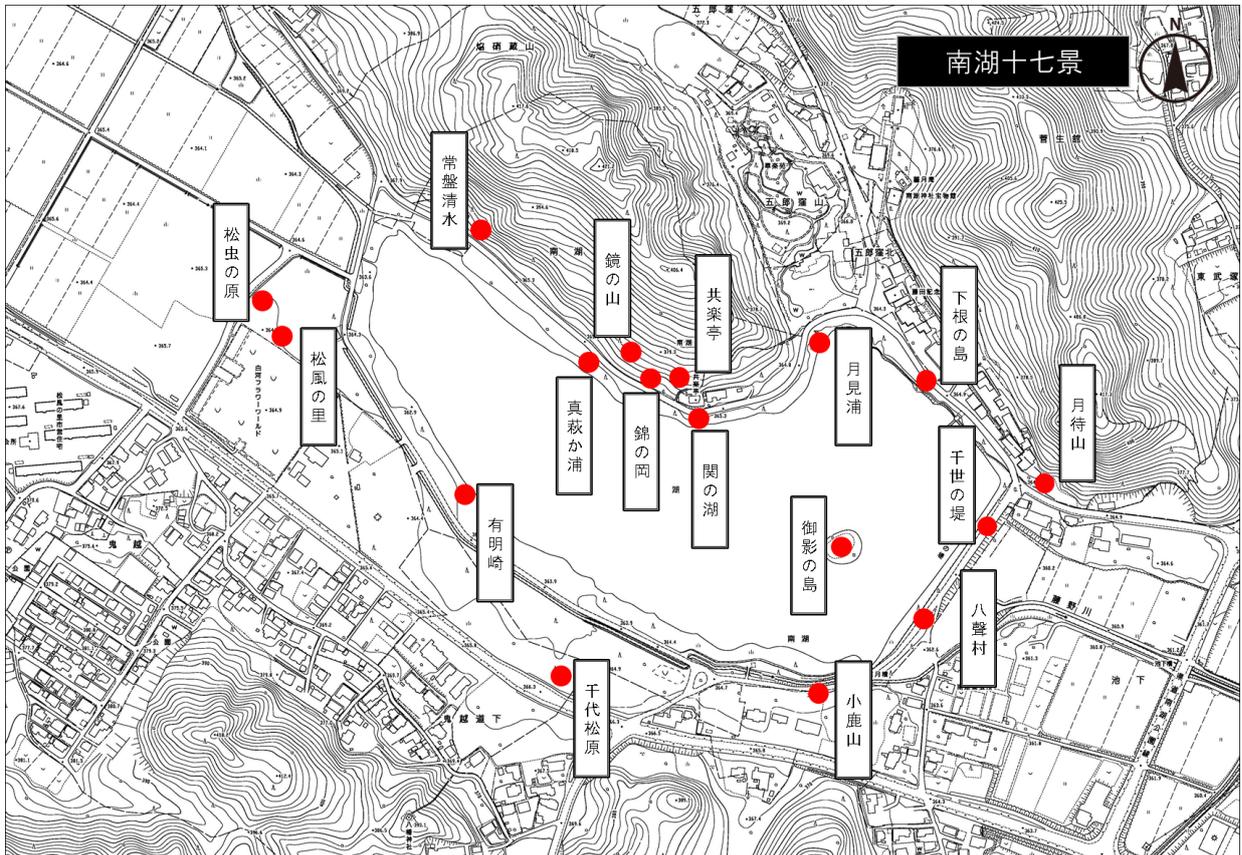
3. 南湖公園の保存と利活用に向けた課題

(1) 南湖を知ること

南湖を価値付ける、また、魅力付けるものは、松平定信が築造に当たり有した理念や意図が表現された空間、地形、風姿（風景）であり、それらは十七の景勝地に特に集約されている。

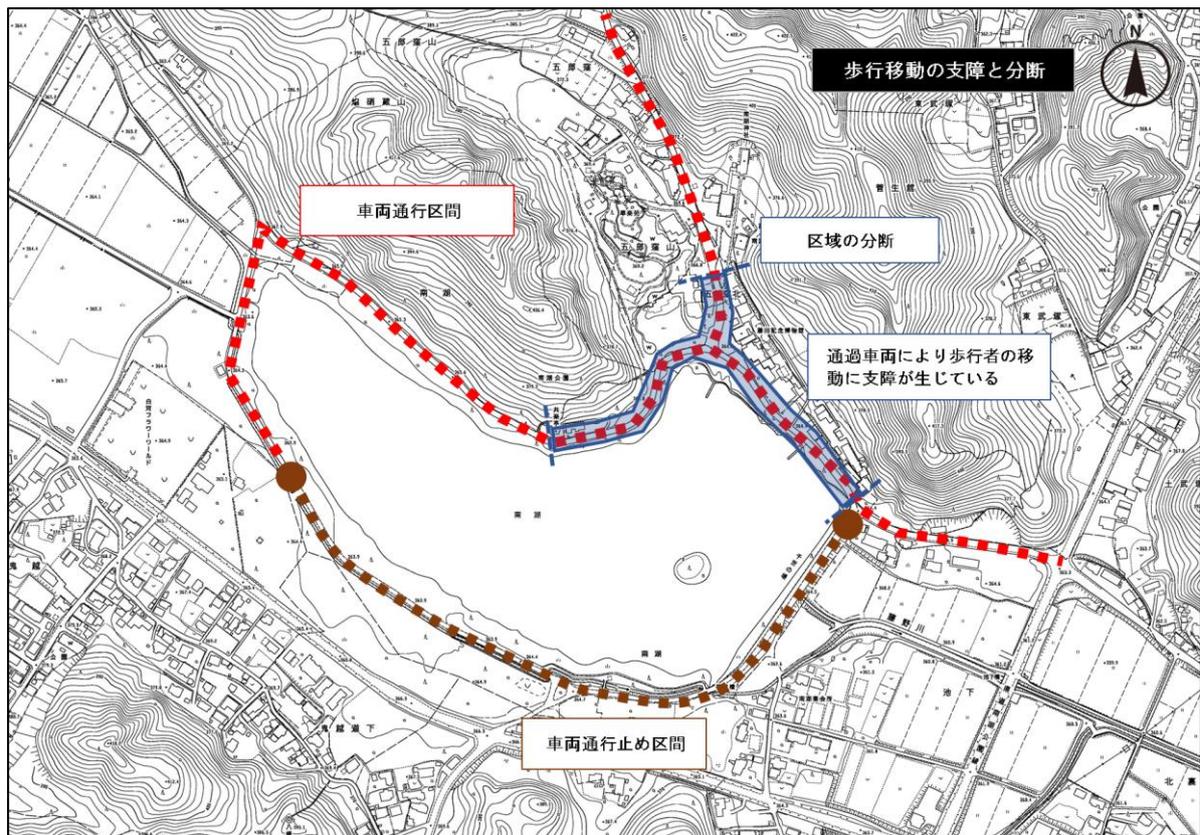
観光客をはじめ来訪者、そして子供から高齢者までの万人が南湖公園の魅力をも十分に享受し、満足して滞在するためには、そうした景勝地を知るとともに感じ取れることが必要である。しかしながら、現在、南湖公園を訪れる人の多くは南湖北側区域に止まっているのが現状である。

景勝地は南湖を囲み、存在していることから、区域の連続性を持たせ来訪者の回遊を促すことで、南湖全体の魅力を十分に伝え、多くの来訪者が南湖の価値を確認することで魅力ある南湖公園を将来に引き継いでいくことにつながる。



(2) 連続した動線の確保

史跡名勝南湖公園第2次保存管理計画策定に当たってのアンケートにおいても「人も車も通行しづらい。史跡名勝に相応しい交通方法にしてほしい。」や「車が通り抜けて落ち着かず、長居したいと思わない。」といった意見が多く見られ、通過車両の有無が滞在満足度や回遊性に大きく影響している。これは、下図の青線で囲まれた部分は車による交通量が多く歩行者の移動に支障が生じていることから、南湖公園内回遊を阻害する一因と考えられ、回遊経路の確保が重要な課題となっている。



〔公園内道路の混雑状況〕

【参考】

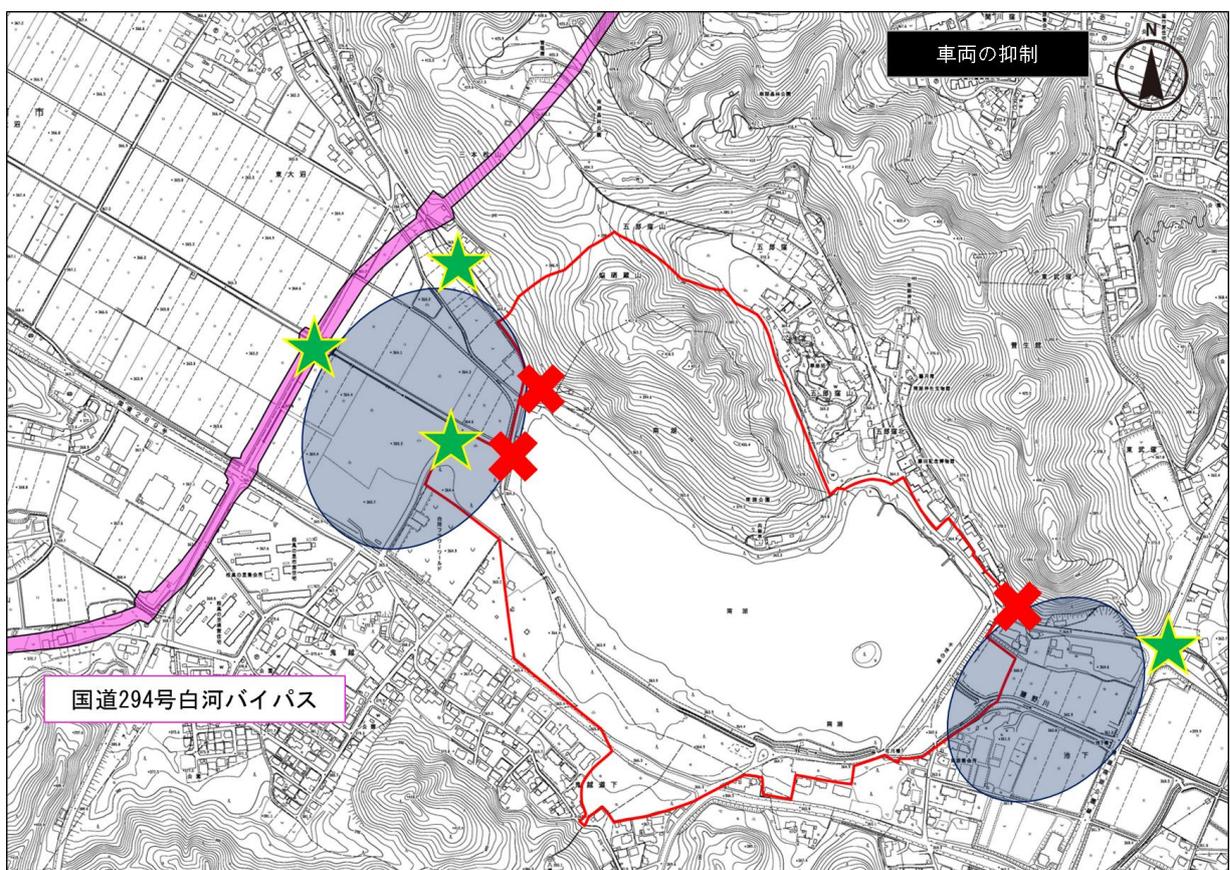
南湖公園には桜の開花時期にも多くの観光客が訪れるが、公園内の道路（市道）には車が溢れ、公園利用者の安全に支障をきたしており、また、公園内の回遊を妨げている。

(3) 安全性・快適性の確保

回遊経路の確保に当たり、市道南湖線は歩行者にとっても重要な回遊路であり、安全かつ快適に散策するためには通過車両が支障となる。公園内への進入口（下記×印 3箇所）またはその導入口（下記★印 4箇所）をポイントとして、車両通行止めや公園内通過車両抑制のための施策を検討していく必要がある。

また、東側駐車場の利用促進を図るとともに、西側からアクセスする車両の進入規制や西側に駐車場を設けるなど、対策を検討していく必要がある。

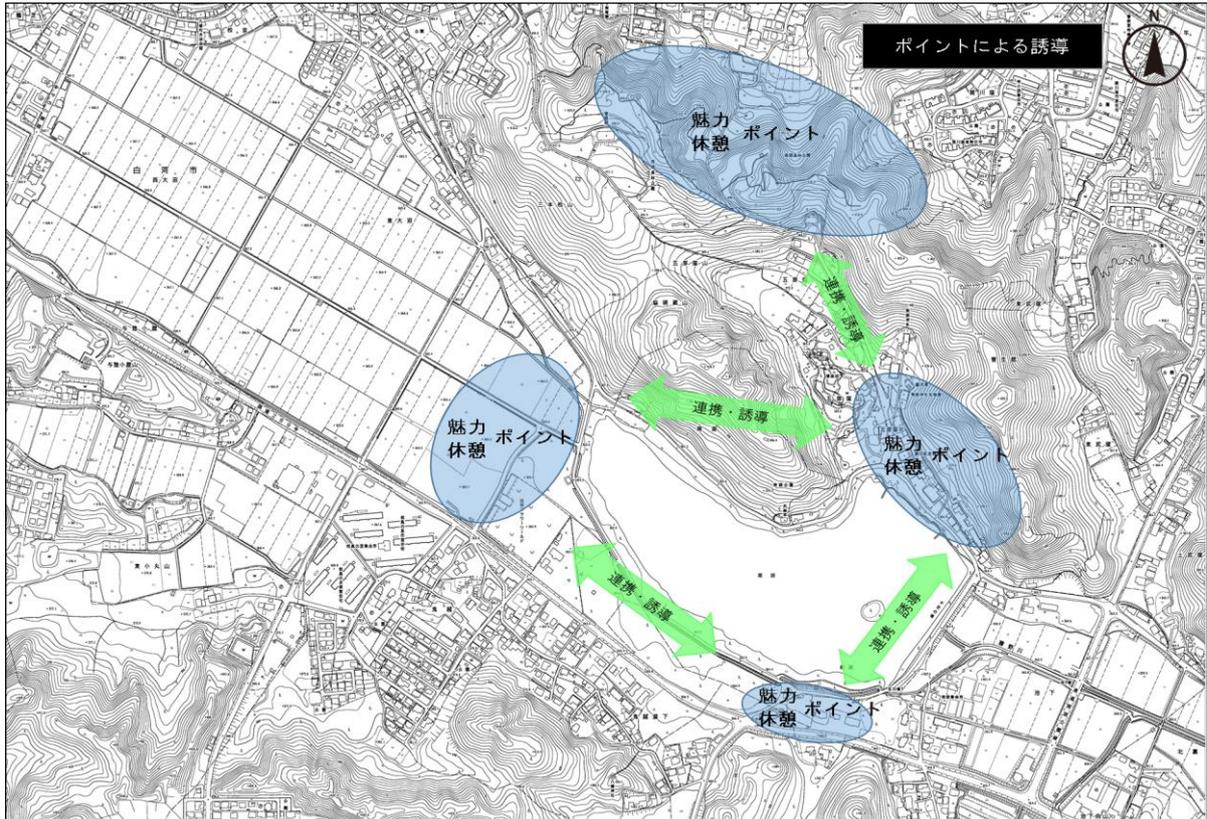
一方で、市道南湖線は付近の生活道路にもなっていることから、居住者の生活にも配慮しつつ適切な方策を慎重に検討していく必要がある。



(4) 誘客の促進

回遊を誘導していくためには、南湖の周囲約2kmにある十七景の散策路に加え、立ち止まって風姿(風景)を楽しみ、また、休憩のできる来訪者を引き込む魅力あるポイントが必要と考えられる。

このため、周囲に存する飲食店や観光施設などの連携や既存施設の魅力向上など魅力・休憩ポイントの整備を図っていくことが重要である。

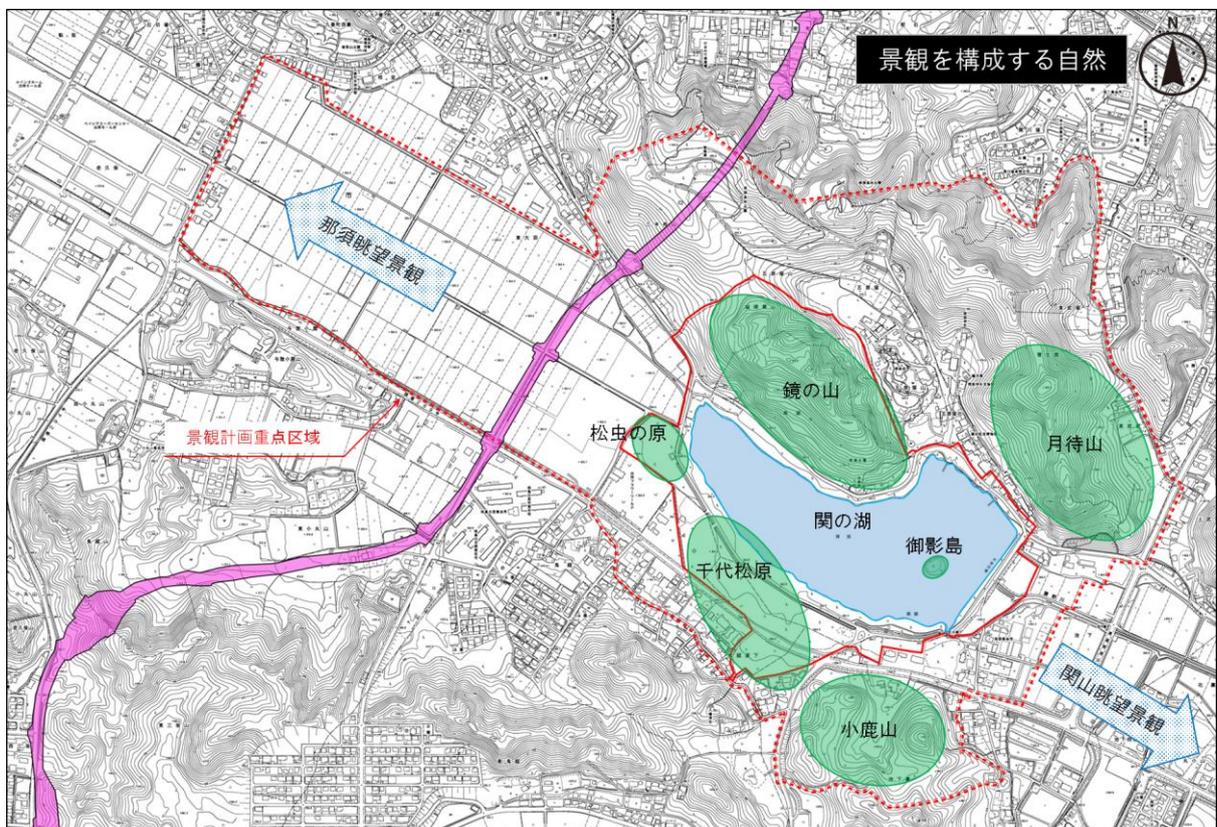


(5) 都市化による遠景との分断

新白河地区周辺は、南湖公園と那須連峰の間に位置し、都市化の進展に伴い商業施設の広告物、高層建築物・構造物なども増えていることに加え、南湖公園と関山の間にも既存の高圧鉄塔や送電線が存在しており、那須連峰や関山を遠景とした眺望景観への影響が認められる。

南湖公園を本市のシンボルとして将来に引き継いでいくために保存と利活用のバランスが必要であることと同時に、周辺市街地の開発とのバランスが重要であることから、将来の地域の発展を見据えた総合的な視点に立ち、守るべき価値を的確に捉え、中・長期的なビジョンにより取り組んでいくことが求められる。

このためには「取り込む」、「抑える」、「遮蔽する」など多様、かつ、適切な手法により南湖公園の魅力である風姿（風景）を良好な状態で将来へ継承していくことが重要である。

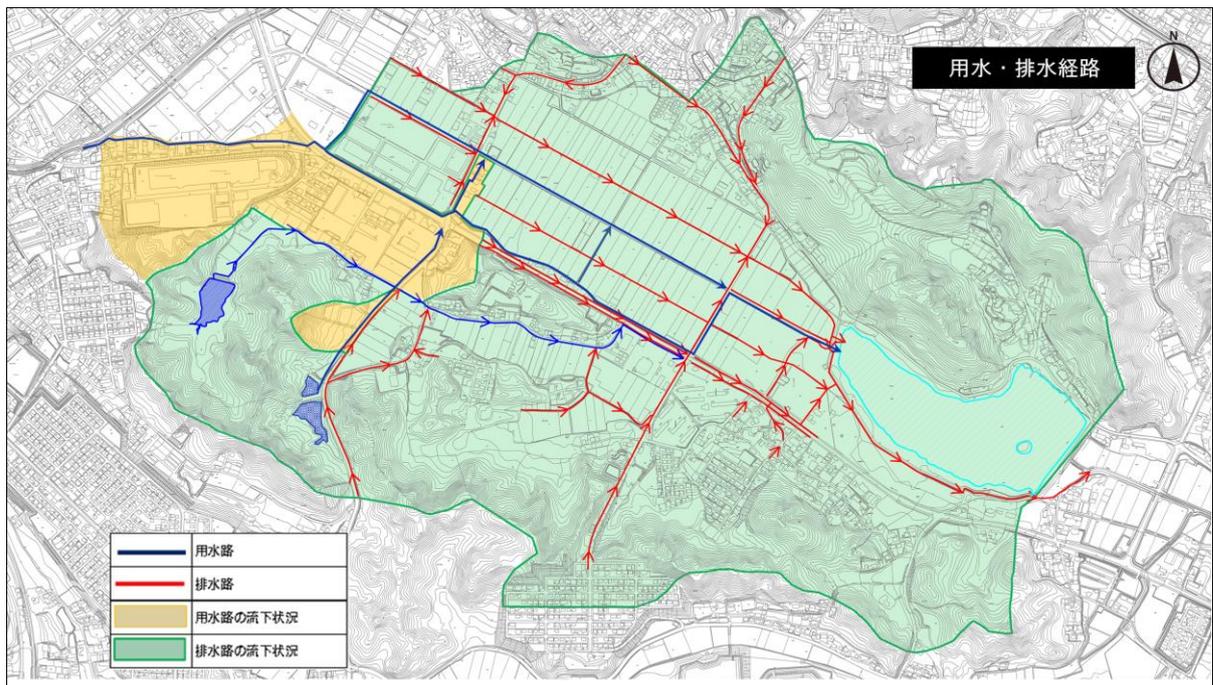


(6) 湖水の環境保全

南湖の水景観は、その他の風景と合わせ南湖公園の魅力の中核を形成している。また、ボートでの遊覧など親水機能も南湖公園の魅力を創る要素の一つとなっている。

周辺の開発により、水質の悪化、水量の確保など多くの課題が生じた。水質障害対策埋設管の整備や平成 28 年度にはその施設機能の改修を行い、水量の確保に努めている。

また、周辺の下水道施設の整備などが進み、以前に比べ水質などの課題は改善されたが、依然として環境基準を超えることがあり、原因の特定に向けてさらに調査を進めていく必要がある。



〔湖面に発生したアオコ〕

【参考】

ヒシの繁茂やアオミドロ、アオコの大量発生により、水景観の悪化やボート遊覧への支障が生じている。

(7) 南湖公園上流区域（南湖西側区域）の土地利用

これまでの記述のとおり南湖西側区域は、重要区域及び準区域の中でも特に計画を推進する上で、重要な区域であることから、「公共性」の視点から土地利用を図っていくことが求められる。そのうち南湖西側区域①（16 ページの図における南湖西側区域の重要区域をいう。以下同じ。）については、南湖公園への影響が特に大きいと考えられるため、文化財指定区域と同様、またはこれに準ずる土地利用が必要である。

一方、新白河駅地区周辺の開発に伴う農地転用や国道 294 号白河バイパスの整備など土地利用が年々変化している状況からも、早急な対応が必要である。

このため、南湖の本質的価値を念頭に、土地所有者、有識者、行政、市民、関係者全員の知恵を集め、状況変化を踏まえ、南湖公園の適切な保存及び利活用に資する土地利用の方向性を定めなければならない。

一つの例として、将来にわたる適切な管理のほか、南湖公園との一体的な利用を図るため「文化財指定区域への編入」を前提として、必要に応じ「交流・滞在拠点」、「休憩所（公園機能を含む）」、「南湖公園利用者駐車場」などの整備、または現況の保存が考えられる。

【参考】

